

カナダ研修

○ 障害児施設見学

1952年に看護師が集まり、始まった。

1600のクライアント、500人の従業員、50のプログラムがバンクーバーにある。両親が働いているので、家庭に常駐したりする職員がいて、支援やサポートをしている。その子のプログラムによって予算がどのくらい出るのか決まる。

0～3歳までのプログラムや、幼児向けのプログラムがある。

チャイルドケアは8つあり、幼児向けや、健常児・障害児のミックスもある。

4つのプログラムがあり、9時～14時の5時間と、一日の8時～18時がある。

1960年～始まったが、最初はボランティアのみだった。

1976年～スタッフが配置された。

いろいろなデータがあるが、一番よいのが、健常児・障害児のミックスが一番良いとデータがある。ここの園は、80%健常児 20%障害児である。

月～金曜日の9時～14時まで。週に2～3日の子もいる。

88人いて、6つのクラス。1クラス12～16人の子どもがいる。クラスに職員は3～4人。各部屋にはキッチンがあり、職員がおやつを配ったり、親がコーヒーを飲んだりする。

週1回、クッキングをする時間がある。(ベーキングデイ)

いろいろな国の子がいて、いろいろな言葉を話すは基本は英語を使っている。

発達障害の子の玩具も用意している。

両親と一緒に、発達に対してサポートしている。

基本は、遊び中心で学ぶようにしている。(コミュニケーション・社会性・感性=5感)

活動の最初と最後は、落ち着いて行動できるように、座るようにしている。

4歳児は並んで移動する事は、難しい事だが行っている。グループとして意識付け出来るように。気持ちをコントロール出来るように。

音楽ルームがあり、音楽専門の先生が来る。音楽を通して発達するように。スキルではない。待ったり、順番を守ったり、楽器と一緒に使ったりする事も学ぶ。クラスを半分に行う。

4歳児は子ども16人に対して職員が2人。

園での流れは、部屋での自由遊び→おやつ→サークルタイム→外で遊ぶ(雨でも)

クラスによってバラバラだが、1～2週ずつテーマがある。職員同士で話し合い決める。

体調には気を付けている。手洗いをしっかりする。熱が出た時は24時間経たないと来られない。

また、下痢や嘔吐、鼻水がひどい時は、自宅待機となる。

他と違うプログラムがある。

- ・プール(温水)、体育館、園庭がある事は珍しい。(発達障害のスタートだから)
- ・発達障害に対して、専門の人がいる。
- ・他とのコラボ(セラピスト etc)協力している。

大きくなれば、健常児・障害児の混合は少なくなる。バンクーバーには障害児のみのプログラムは2つある。

小学校は、障害児も一緒。その子対応がある。高校になると分ける事が多い。子どものうちはサポートが多いが、大人になると親の責任や負担が多くなる。

0～3歳は子ども4人に対して職員1人。3歳～6歳は子ども8人、職員1人。5歳～12歳は子ども10人、職員1人。

保育園と幼稚園の違いは、ほとんど一緒だが、保育園の方が保育時間が長い。

小学校に行くまでのプログラムはいろいろある。幼稚園、保育園、両親と一緒に過ごす etc

保育園は保育料がいるが、5～6歳の幼稚園は無料である。

○ 支援施設

スタッフ8人。うち、フルタイム5人、パート3人。

定員24人。3歳以下、12人。3歳以上12人。(1ヵ月半～6歳まで)

チャイルドケア→家族を支援している

女性で、経済的にあまり豊かでない人を受け入れている。

建物の4～5Fに12部屋あり、シングルマザーが居住している。3Fは、病院や事務所があり、連携している。1Fはランチルームがある。キッチンは2つの団体が共有している。

バンクーバーは、ランチを支援している。作ったり、食券を配ったりしている。

4～5Fに住んでいる人は勿論、近くに住んでいる人も支援している。(アルコールやドラッグ依存症の人は妊娠中より支援している)

両親の代わりに、祖父母を支援する事もある。

兄弟などいたら、6歳までなら優先的に受け入れている。クラスは別々なる事はある。

病院より週1回スタッフが来ていてサポートしている。

スタッフは多くいる。その分、特別な人も受け入れている。診断待ちの人や心配性の人、外部と喋らない人 etc)

子どもを預かり、親にはサポートしている。(施設紹介など)

カナダは産前産後合わせて12ヵ月産育休があり給料は出る。プラス12ヵ月休めるが給料はでないが必ず復帰は出来る。

カナダの保育園は雨でも必ず外に出て遊ぶ。風邪をひくのは寒さではなくて、ウィルスからである。必ず手洗いをしてウィルスを取り除くようにしている。

子どもは転園するのか、ずっといるのか?→転園する人もいれば、ずっといる人もいる。状況によって違う。

4～5Fの居住は子どもが18ヵ月までと決まっている。

サポートはしていくが、決めるのは親である。

カナダは虐待を見付けたら通報する義務がある。

○ 3つ目の施設

政府より、必ず年間紙を作るように言われている。

家で保育する事もある。センターは10個 プログラムは30個 800人を10箇所で見ている。

この園は、80%両親が働いている。

1年のトレーニングで保育士のライセンスが取得できる。なかには2年の人もいる。

大学より実習にきている。

レギュラースタッフが60人、自由に動く人(時間帯)が50人いる。

赤ちゃん～12歳まで見ている。小学生は学校に行く前と放課後。

開園時間は7:30～18:00 昼ご飯はお弁当か給食。給食はお金がいる。

毎日1グループは散歩に行っている。

乳児クラスは、子ども4人に対して職員1人。1クラス12人いる。

幼児クラスは、子ども8人に対して職員1人。1クラス25人いる。(3歳～5歳)

職員の時給は、1時間20ドル

子どもに対して敬意を表すようにしている。

温かい環境を心掛けている。

子どもが興味を持てるようにしている。発達や教育の手助けをする。

発達の遅い子は、専門の方にみてもらいサポートしてもらおう。ダウン症、自閉症、多動などの子が、心地よく過ごせるようにしている。

1日の流れは決まっている。昼寝もしているが、眠れない子は15分間は静かに横になっている。

その後は、静かに遊んでいる。

小学校と話し合いをして連携を取っている。

○ 日本人の施設

デイケアがある。3歳～5歳児。 7時～18時まで。昼ご飯は持参である。

1日3時間。おやつが1回のみ。この施設は日本語を勉強する施設なので、他の施設とは違う。

施設のライセンスを取得する為に、玩具などが決められている。アート、組み立て、オープンなどサークルタイムも決められている。

1対1や、静かに過ごす、グループなども求められている。

子ども達には視覚で分かるように工夫している。例えば、ここは何人まで、などは人数を貼る。

大切にしている事は社会性。

子どもの興味に合わせて保育をしていく。

○ 11月8日

2007年、州知事になった人が、初期教育について考えた。

2010年、50%の子どもが幼稚園(3歳半～5歳)に通っている。

就学前は、家、保育園、幼稚園に分かれている。

幼稚園は、算数、文字などのカリキュラムがあるが、保育園にはほぼない。保育園と幼稚園の違いを少なくしていきたい。

チルドレンケア、キンダーガーデンを同じ土地に統合していきたい。スムーズに移行出来るようにしている。今は、移行段階。一番良いと思っている。

5000の認可デイケアが小学校の中にある。以前は少なかったが、2007年以降に増えている。

定員275000人の認可保育園がある。19%が通っている。他は、幼稚園や自宅など。

遊びベースで無理のない、統合を目指している。

自宅での保育の中には、事務所が管理している所もある。135の事務所があり、1000～2000くらいの家庭保育がある。血縁以外の5人まで。18000人くらい保育している。5歳以下は自宅(母・祖母)などもいる。

教育予算は、市が出している。所得に応じて補助が決まる。

(省)=日本で言う厚生省

(省)は、障害のある子の予算も出している。(省)→市→施設と予算が出る。

(省)から監査もある。親やスタッフから苦情があれば、調査にくる。

質の向上のプログラムも考えている。乳児、幼児、小学校など流れのある向上を目指している。(部分的ではなく、総体的に)

保育園の95%が私立である。

待機児童は日本と同じくらいいる。

2010年までは、幼稚園は全て半日保育だったが、少しずつ1日になるようになっていく。

デイケアは0歳～12歳まで見ている。

保育園と幼稚園を一緒に保育する。基本は遊びベースで学ぶ。(遊び=学び、調査=視線、探索、指導)

幼稚園は基本9時～15時 必要があれば7時～18時←保育士が見る。

○ 施設

4ヵ月～18ヵ月、18ヵ月～2才半、2才半～3才半、3才半～5才半の4クラス

親も関わっていく理念を持っている。

従業員の子どものみを優先して入るようにしている。他は、近くの職場の子ども。

開園時間、7:30～18:00。8時間保育を進めている。

子どもの数を少なくしたり、グループを小さくして、子ども達を見やすいようにしている。

18ヵ月までの子ども10人に対して職員4人。2才半までの子ども13人に対して職員3人。

3才半までの子ども15人に対して職員3人。

遊び中心でリラックス出来るようにしている。子ども、一人ひとりを見ている。

音楽や、スポーツなどは、専門の方がきて指導している。

週案や日誌などはある。

トロントには700個のデイケアがある。市が管理している。予算や品質、補助金を管理している。

職員を採用する時は、履歴書、面接、保育に4時間入る。学生の時、実習した人もいる。見習い期間が6ヵ月ある。

保護者とのコミュニケーションは、部屋にノートがあり、小さい子は細かく書く。起きた時間など。大きい子は、ざっくりとなっていく。

感想

保育室はとても広く、玩具もたくさんあった。日本ではたくさんの玩具を用意しても1グループが部屋の大半を使用し、他の子がなかなか遊べない事がよくあるが、部屋が広い分、思う存分玩具を出しても、他の子も違う遊びが思い切り出来る感じだった。国の考えが、しっかりしているので、職員も安心して保育が出来るように思えた。子どもと、職員の比率も無理のない比率であり、子ども一人ひとりに

目が行き届くように思った。雨の日も当たり前のように外で遊ぶので保育者にとっては大変だが、子ども達にはとてもよい事だと思った。法律や、お国柄、親の考えなどが全く違う為、日本の保育に取り入れられる事は少なく感じたが、どの施設の職員も自分のスキルを上げる為の勉強をしているように感じた。また、子ども一人ひとりをしっかり見て、5感を伸ばそうとしていた。学びは遊びから、表現や、感触など子ども達が自ら学べるようにしていきたいと思った。